

に打克つても、益修養して行かうと云ふには、
 かなりの努力を要するものですから、此努力を多
 々益辨じ得る様に、兒童の修養慾を涵養して置
 くとは大切な準備であります、如何に兒童心身の
 活力が盛であつても、其修養慾が適當に培養し
 てなければ、勉強上に努力を集中する勇氣は起り
 ません、故に「東郷大將になりたい、大山大將と
 ならん」など云ふ子供の欲望を利用して、其欲望
 を達せんには修養の必要になると、其修養には多く
 の忍耐努力を要するを、漸次悟了する様に仕向
 けなければなりません。



實驗上の育児 (つゞき)

醫學博士 瀨川昌耆君述

生兒の抱き方

▲脊中を打托こと 生兒を抱いて搖る事が既に

悪ければ夫れと稍相似たる仕方では生兒を抱いて脊
 中を打托事の習慣がある爾うすると生兒は泣いて
 居ても次第に泣止んで仕舞ひます、此の習慣は發
 育上如何なる影響を及ぼすかと云へば之れは抱い
 て搖る程の弊害は無い、餘り強く、永く打托ては
 甚だ宜しくないが靜に、軽く言はゞ守唄の相の拍
 子に叩く位なら先づ差支へないのです

▲抱き布團にて抱くべし 一体生兒の腰から下

は襁褓を幾重にも厚く捲いてあるし、身体の上
 部はシヨール杯で纏むもの、スルと生兒は襁褓や
 シヨール杯に支へられ何うやら斯うやら眞直の形

になるが爾うなつた處で脊髓や首が眞直に立つ氣遣ひはないのです、然るに生兒の抱き方を見る處往々眞直に抱いて居ます能く注意して御覽なさい世間には必ず多くある例ですから……第一生兒には立つ丈の力なき者夫れを衣服やシヨールや襦袢の力で支へさせ立せて眞直に抱と遂に生兒は不具の發育を見るに至ることがある、ナニシロ生兒の身体はグニヤ／＼した取とまりのないやうなものだから如斯生兒を抱くには必ず布團を作つて其上へ乗て抱くやうにしたい

▲抱き布團の拵へ方 此抱き布團の拵へ方をお話し致さう、之れは木綿巾で長さ三尺位にし中には、古綿か左もなぐば軟らかい藁の類を入れても可いので極く緊乎した、餘りグタ／＼仕ないやうな布團を作るのです、爾うして其の長さ三分一位

の處即ち一尺程は折返す事の出来るやうにし、其折返した一尺の四隅へは適宜の長さに紐を附けて置くのです、先づ抱き布團の拵へ方は之れで解りになつたでせう

▲抱き方 其の拵へ方がお解りになつたら何うして生兒を此布團で抱くものか其の抱き方に移りませう、ソコで生兒は紐の附いた一尺位折返しの出來た方へ足を向けて長いなりに仰向けに寝せ、其上で布團の裾を折目の處から折返して小兒を被ひ四筋の紐をグルリと布團の後ろへ廻し丁度生兒の背面のあたりで結ぶのですが、斯うすれば生兒は布團の力で前後を支へられ抱くにも身体が緊乎します夏でも冬でも此布團はお用ひなさい

▲綾掛けで脊負ふ害 此の抱き布團で抱くにも横に抱いて頭部を高さ加減になし、生兒の脊へは

必ず手を掛けて支へて抱き、決して軽々しく抱いてはならぬ、尙生兒を脊負ふ事は甚だ宜しくない綾掛けに脊負れた生兒は首が拔出しさうになつて居る憐れな姿を見たら茲に説明する迄もなく其の弊害を認められるであらう

剃髪とお灸

▲何故頭髪を剃るか 私は是れ迄親達や保育者の

處置法に氣を注げて見ますと生兒の取扱ひには随分種々な悪い爲にならぬ習慣があつて「ア、云ふ事は止て貰ひたいが」と眉を擡める事がありませう、誰人も御存でせうが生兒の頭髪を剃ると云ふは古より一種の習慣で産毛の儘で置くのは割合に極く尠ないので、爾うして剃る口實は『産毛で置けば生兒が逆上て宜けません』と是れは万口一致した言草になつて居ます、昔は醫者の誤解から

或は爾う考へ其の習慣が改まらずに剃る方がよいとなつて夫れが親々の頭裏へ泌みこんだから誰れでも生れた兒は必ず剃る事と固く信じた、夫れから『産毛は不淨だから剃るものだ』と之れも一種の迷信から斯んな説を來たしたのであらう故に舊産婆でも頼むと生兒の髪毛は無暗に剃つて仕舞ふ殊に産毛を剃らぬと良い頭髪が生へぬと斯う信じて居つたものです

▲道理なき説 産毛を剃らぬと逆上ると云ふが實驗上剃らぬから逆上ると云ふ事は無い、夫れが證據には剃つて置き乍ら頭巾を被せるではありませんか逆上るから剃るものなら頭巾を被せる必要はあらず、又産毛は不淨と云ふが毎日湯を浴させる時に石鹼で奇麗に洗つて遣れば何も不淨な事はないし剃れば良き髪毛が生へると云へど産毛は

決して永く其儘にあるものではない、之れは次第に追々と良き髪毛とぬけかはつて仕舞ふもの強ち剃るには及ばないのです

▲頭髪の効力 斯う申したら頭髪を剃る効能は一ツも無い、然らば産毛の儘で置けば何ういふ利益があるかと云ふに第一頭部を器械的に保護するので、少し位物に打觸てもアノ軟らかい固まらぬい頭部を傷ける事が少ないのです、私が言ふ迄も無く頭部は大切なればこそ骨や毛髪で裏んで居るのでありませんか、第二には頭部に受くる冷熱を防禦するのです、髪毛を剃つたら冷熱は直接に感ずるが髪毛のお蔭で之れを防ぐので冬季の嚴寒、夏季の酷熱、斯ういふ場合に何れ程毛髪が頭部を保護するか知れない夫れを考へてもムザ／＼生兒を剃髪とする事は出来まいと信じる

▲灸の害 頭髪を剃る悪弊と共に眉毛まで剃る剃刀序に眉毛を落すのでせうが生すべきものを剃るのは之れも奇習の一ツです、次に「灸を据へて丈夫にする」と云ふが初生兒に此の様な熱い思ひをさせるは何んと云ふ慘酷なこととせう臍の邊へ灸を据へると俗に云ふ虫が起らぬとか或は臍突にならぬとか云ふが、却つて灸の爲め急性の痙攣など引起し「ひきつける」やうな事を起さぬとも限りませぬ、灸を据へぬとて虫も起らず臍突にもならぬから开んな理由無き心配をするより悪い習慣を取除くやうにしたいたいものです

黄 疸

▲皮膚が黄色になる 生兒の育て方は實に困難なもので一寸でも油断すると色々な故障の起り易きものだが茲に一種の生理的狀態から親達を驚か

せることがある、夫れは生後五六日目から十日前後に發するので身体の皮膚は、悉く黄色を帯び生れたときは全然皮膚の状態が變るから何んな病氣が起つたのだらうと周章狼狽して大心配をするもの、併し左のみ驚くに及ばぬことで之れは黄疽と稱するのです、西洋の統計を調べて見ると随分多いが日本でもナカ／＼多く見受けます

▲是れを黄疽と稱す 一体黄疽は今も述べた通り生理的作用によつて起る一種の状態なれば別に病氣と云つて騒ぐ程の事は無いのです多くの産兒は稍ともすると斯んな状態になるが、之れは其の儘に打捨て、平素の取扱ひ通りになさい爾うする内に追々舊に復し皮膚は素通りの色になる故親達や側に居る經驗乏しき保育者が心配のあまり保育の取扱ひを疎漫にでもすると却つて夫れが害にな

ります、去れども餘り烈しくなつて生兒の機嫌が悪いやうなら醫師の診斷を仰ぐのが適當の處置と信ずる

▲初生兒より哺乳兒

初生兒時代の保育法は以上述べ來りし如き順序であります、初生兒時代とは前にも申した通り生後二週間位迄を云ふので臍帯が落ちて其の傷の癒へる頃までの間である先づ

此の初生兒時代を無恙通り越し、生兒の身体に異状なく健康であつたら次に來るべき哺乳兒時代に移らなければならぬ

▲哺乳兒時代

▲此時代の解釋 哺乳兒時代とは何時ごろまでを指して謂ふかお咄しの順序として夫から説明いたしませう、之れは初生兒時代から一年間位を申すので、此時代の保育は實に六ヶ敷ものでありま

す、小兒が發育を誤つて一番多く死亡するのは此の哺乳兒時代であります、之れを考へても親達の丹精は實に容易なものでない、可愛盛りの哺乳兒が健全に育つか、或は不幸にして斃れるか、寢食を忘れ、慈愛のありたけを捧げて育てなければ哺乳兒は完全に發育するものでない

▲健康なる標準 哺乳兒發育の狀態即ち健康なる哺乳兒の標準を知つて置く事は先づ第一に必要なであり、此時代には身体も精神もズン／＼上進して育つものであるが虚弱か、健康かを識別するに就いて、健康なる哺乳兒なら身体が大きく成長するし爾うして体量が増殖る、併し丈の高くなるのは健康の上に左のみ必要なく、夫れよりは体量即ち目方の増殖るのが最も必要である、目方が増殖ても其目方の増殖方が一定の規則に缺け一定の量

に達せざれば不健康と見做なければならぬが、此の体量の事は頗る大切な問題故次に詳しく申上げやう

健康兒の標準

▲増量一定の標準 哺乳兒時代は保育が尤も困難で、一番死亡するのも此時代であるが、又一番發育の早いのも此時代である、健康か虚弱かは一定の増量を標準とし、其標準より体量が少なくなれば其の哺乳兒は虚弱と見做し、一應専門醫に相談しなければなるまい、去れど一定の標準より体量が少なからざれば其の哺乳兒は健康兒であります、切茲で体量増加の一定の標準をお話し致さう、健康なる哺乳兒なら、生後半ケ年即ち六ケ月目には生れた時の目方の丁度二倍になります、一ケ年即ち十二ケ月目には、生れた時の目方の三倍に達す

るもの、夫れ故出生の際生兒の体量を量つて置くのは其の小兒の將來健全けんをトするに尤も大切な事ではありませんか、テ若し此の標準より尠き目方なら全く發育不充分と推斷しなければなるまい夫れから尙其の小兒が六歳に及んで滿一歳の体量の倍になり十四歳の年齢には滿六歳の倍になる、此の標準をも記憶し置くは大切なことである

▲發育不良の生兒 併し發育の良き哺乳兒は六

ヶ月目に達せずとも四ヶ月目位で出生した時の体量の倍に達することもある、之は頗る健康兒の徴候と祝さなければならぬのです、ケレども發育の順序には種々な變則のあるもので生れた時發育が悪いからとて決して落膽するには及ばぬ、私の實際以上に斯ういふお話の種があります、現に私の子供でしたが生時、所謂假死の生体で、息は絶

えて居つたのです、けれども何うか救からぬ事もあるまいと人工蘇生術をもつて漸く呼吸を吹返へさせたがナニシロ斯ういふ次第であるから、其當時は發育も不良で、生体も至極小さかつたのです斯んな有様でも是迄の例によつて健康兒とならぬことはないと一生懸命で大切に、注意して保育したら其結果遂に生後四ヶ月目にして、出生當時の体量の倍に達しピン／＼した丈夫な兒になりました、斯ういふ例もありませんから、生れた時發育不良なりとて總て育て方一ツと心得て貰ひたい

▲体量を量れ 健康なる哺乳兒の体量は日々に増加するもの故、少なくとも、一週間に一度とか、又は二週間に一度は必ず体量を量つて見るのは保育上是非實行されたいものです、万一其都度々々に増量しなければ、必ず哺乳兒の身体に缺點があ

るとか或は育兒の方法が悪いとか、何か素人には
 分らずとも病氣がある事と推定しなければならぬ
 斯ういふ推定を下し得るのも要するに手敷をかけ
 て体量を量ることの賜で、若し体量を量らずに置
 けば容易く之を發見することが出來ず、其兒が甚
 しき衰弱とか、發病するとかして後大騒ぎするや
 うになる、斯る面倒を懸けるは哺乳兒の健康上の
 爲め故是非体量を量ることを親々が實行されるや
 うにしたい

(ついで)

春の料理

石井泰次郎

これはきはめて初春の料理としてには有らね
 ど、たゞ、雪の色、梅の香の題意によりて、つ
 くりたるものなり

◎茶巾ゆりねのこしらへかた

(原料)百合根五合、かつほだし一合、みりん
 二勺、砂糖二十勺、醬油三勺

ゆりの新らしきを、うらの根の所を、小刀にてえ
 ぐりととりて、あとを悪しき所を剥ぎ去り、一枚づ
 ゝにし、水にて洗ひ、湯鍋に入れ、十分間余湯煮
 して、箆にとりあげ、筆を切て鍋に入れ、かつを
 煎汁、みりん、砂糖、醬油を合せ入れて、煮るべ
 し

さて煮えたるを取上げ、馬尾篩にて、裏漉に、木
 杓子にて押して漉し、それを布巾に包みて、茶巾形
 につくるなり、茶巾形とは、丸く包みて、包みた
 る上の方を捻りて右の手にて固く持ち、右手の大
 指の元の方に、其裏を押付て平たくし、冷に其く
 はみたる所を大指の先の腹にあて、尙くばまし